

「防災道の駅」の社会実験に取り組むまで

●自然災害と「道の駅」

新潟県中越地震、東日本大震災の発生をきっかけにして、「道の駅」が防災や避難者支援に果たすことができる役割がクローズアップされました。それまで「道の駅」は【休憩機能】【情報発信機能】【地域の関係機能】の三つの役割がありましたが、さらに近年は【防災機能】の点でも期待されるようになってきました。

●防災道の駅とは

2021年6月、国土交通省により、「道の駅」の第3ステージの取り組みの一環として、都道府県の地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置付けられている「道の駅」から全国39か所が「防災道の駅」として選定されました。その中には東北から5か所の「道

の駅」が入っています。

●道の駅いいで果たす役割

「防災道の駅」の一つとして認定された道の駅いいででは、「防災道の駅」が果たすべき役割、果たすことができる役割について考え、それらを形にしてみる実験に取り組むことにしたのが、この度の社会実験です。

ハード・ソフト両面から、従業員や地域の自治会、行政等による社会実験組織を立ち上げて実際に取り組み実験を行い、知見を得て他の「道の駅」の防災化への方向性となるモデル事例やガイドラインの構築を示すことを提案いたし、以上のような社会実験を、産官学民の協働により実施いたします。

協議会構成メンバー

協議会構成員

組織名(団体名)	代表者名
山形県飯豊町	町長 後藤幸平
道の駅いいで	駅長 安達純一
東北「道の駅」連絡会	会長 後藤幸平
特定非営利活動法人東北みち会議	理事長 鏝 啓記
特定非営利活動法人人と道研究会	代表 松本順子
宮崎大学地域資源創生学部 地域都市計画経営研究室	教授 熊野 稔
福島大学理工学類社会計画コース	教授 川崎興太
国土交通省山形河川国道事務所	事務所長 森田裕介
山形県県土整備部	部長 小林 寛



2022年9~10月、道の駅朝霧高原で行われた防災技術展

9月27・28・29日の主な実験内容

- ① 防災セミナー
- ② 防災ワークショップ
- ③ ネットとリアルによるアンケート調査
- ④ 道の駅いいで所有防災関係設備稼働予備実験
- ⑤ 協力企業提供防災機器等実演
 - ・防災デジタルサイネージ
 - ・移動式発電パネル、蓄電池
 - ・空気製水機
 - ・炊き出し用アルファ米
 - ・ほか

セミナー、ワークショップ参加者募集

社会実験日(9月27日)、防災セミナー(午前)と防災ワークショップ(午後)を開催します。

防災セミナーは宮崎大学熊野稔教授による、「防災道の駅」に関する内容です。自然災害発生時に「道の駅」がどのような役割を担ったか、これから「道の駅」は自然災害発生時、どのような役割を期待されているかなどを、わかりやすくお話しします。

防災ワークショップは、社会実験参加企業による製品説明と参加協力の意図を説明し、その後、道の駅いいで防災設備、取り扱いなどの確認、さらに「道の駅」一時避難者への防災設備等の検討を行います。その後、道の駅いいで課題抽出と提案作業を、各班4~5人程度のグループで行います。

協力企業・団体

- 一般社団法人ルートスクエア
- 株式会社PARKER
- 株式会社三陽電設
- ミヤチ株式会社
- 国重・ライティング株式会社
- 株式会社かます東京
- アルファ食品株式会社(2023.9.1. 現在)

